

# Asia Indicators

発表日: 2023年11月2日(木)

## 豪州の家計消費は依然堅調な推移が続く(Asia Weekly(10/30~11/2))

～韓国の輸出額は13ヶ月ぶりに前年を上回るなど底入れの動きを強めている～

第一生命経済研究所 経済調査部

## ○経済指標の振り返り

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/30(月)	( <a href="#">オーストラリア</a> )9月小売売上高(前月比・季調済)	+0.9%	+0.3%	+0.3%
10/31(火)	( <a href="#">韓国</a> )9月鉱工業生産(前年比)	+3.0%	--	▲0.7%
	(中国)10月製造業 PMI	49.5	50.2	50.2
	10月非製造業 PMI	50.6	--	51.7
	( <a href="#">台湾</a> )7-9月実質 GDP(前年比・速報値)	+2.32%	+2.10%	+1.36%
	( <a href="#">香港</a> )7-9月実質 GDP(前年比・速報値)	+4.1%	--	+1.5%
11/1(水)	( <a href="#">韓国</a> )10月輸出(前年比)	+5.1%	+5.5%	▲4.4%
	10月輸入(前年比)	▲9.7%	▲4.3%	▲16.5%
	(中国)10月財新製造業 PMI	49.5	--	50.6
	( <a href="#">インドネシア</a> )10月消費者物価(前年比)	+2.56%	+2.60%	+2.28%
	( <a href="#">香港</a> )9月小売売上高(前年比・数量ベース)	+10.1%	--	+11.0%
11/2(木)	( <a href="#">韓国</a> )10月消費者物価(前年比)	+3.8%	+3.6%	+3.7%
	( <a href="#">オーストラリア</a> )9月輸出(前月比・季調済)	▲1.4%	--	+4.6%
	9月輸入(前月比・季調済)	+7.5%	--	▲0.8%
	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%

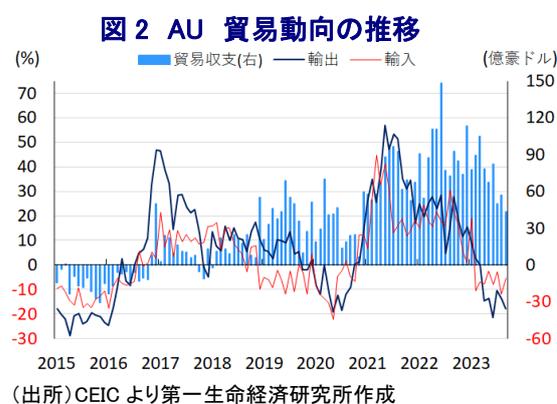
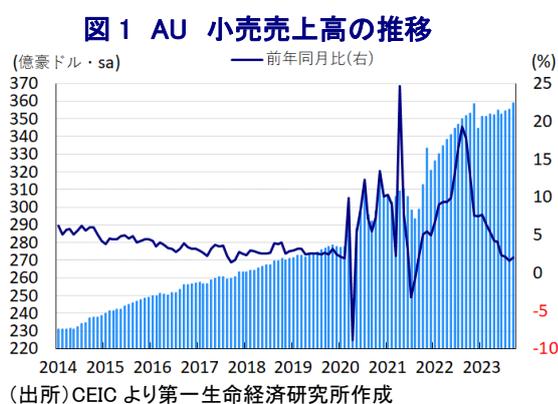
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [オーストラリア]～温暖な天候や底堅い雇用環境も追い風に家計消費は堅調に推移して過去最高を更新～

30日に発表された9月の小売売上高(季節調整値)は前月比+0.9%となり、前月(同+0.3%)から3ヶ月連続で拡大しており、単月ベースの水準も過去最大となるとともに、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている様子が見えてくる。食料品など生活必需品に対する需要が堅調な動きをみせているほか、宝飾品など高額品に対する需要も底入れの動きを強めるとともに、日用品に対する需要も同様に堅調に推移しており、春先の温暖な天候も追い風に幅広く家計消費が活発化したことが影響している。新型スマートフォンの発売に加え、クイーンズランド州においてエネルギー消費の節約を目的とする還付プログラムが実施されていることも、家計消費の押し上げに繋がっているとみられる。足下の雇用は量・質の両面で頭打ちの兆しがみられるほか、インフレ率も高止まりするなど実質購買力に下押し圧力が掛かりやすい状況が続いているものの、家計消費の底堅さが改めて確認される格好となっている。

2日に発表された9月の輸出額(季節調整値)は前月比▲1.4%となり、前月(同+4.6%)から2ヶ月

月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きが続いている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに底堅い動きがみられるものの、日本向けのほか、ASEANをはじめとするアジア新興国向け、米国向けなどが頭打ちの動きを強めるなど、輸出全体の足を引っ張っている。財別の動きも、主力の輸出財である鉱物資源関連などに堅調な動きがみられるものの、農産品や工業製品関連の輸出が弱含んでいることが輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前月比+7.5%と前月（同▲0.8%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出とは対照的に底入れの動きを強めている。財別でも、機械製品関連などの輸入に底堅い動きがみられるほか、商品市況の底入れの動きを反映して原油をはじめとする鉱物資源関連の輸入額が押し上げられていることも輸入の堅調さに繋がっている。結果、貿易収支は+43.52億豪ドルと前月（+56.74億豪ドル）から黒字幅が縮小している。



### 【韓国】～米国向けや日本、中東向けなどの堅調さを追い風に、輸出は13ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じる～

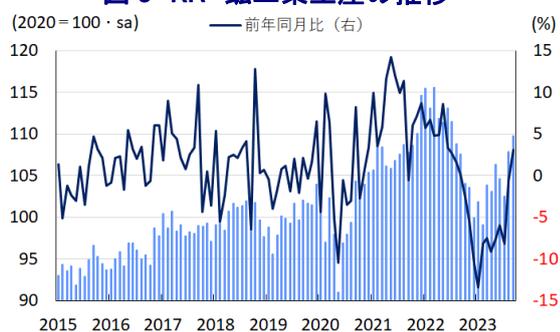
31日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+3.0%となり、前月（同▲0.7%）から12ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+1.8%と前月（同+5.2%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。製造業や鉱業部門で生産が底入れの動きを強めている様子がうかがえるほか、公的部門や建設業にも堅調な動きが窺える一方、サービス業の生産は力強さを欠く展開が続くなど対照的な動きもみられる。なお、製造業については、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の生産拡大の動きがけん引役となっているほか、素材に関係する化学関連の生産にも底堅い動きがみられる一方、対照的に電気機械関連の生産は弱含みする展開が続いている上、労働組合によるスト実施の影響で自動車など輸送用機械関連の生産も下振れしており、こうした動きを反映して金属をはじめとする重工業関連の生産にも下押し圧力が掛かる動きがみられる。分野別でも、資本財や中間財関連の生産は堅調な推移をみせる一方、消費財関連の生産は低調な推移が続いており、外需関連の生産は好調さを維持する一方で内需関連の生産が弱含む動きをみせるなど、対照的な動きが続いているものと捉えられる。

1日に発表された10月の輸出額は前年同月比+5.1%となり、前月（同▲4.4%）から13ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けは引き続き力強さを欠く推移が続いているほか、EU（欧州

連合) 向けや中南米向けなども勢いの乏しい動きをみせる一方、米国向けは堅調に推移するとともに、日本向けや中東向けなどの底堅さも輸出全体を下支えしている。財別でも、主力の輸出財である半導体で底打ちの動きがみられるほか、自動車や石油製品関連の輸出の堅調さが輸出を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比▲9.7%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲16.5%)からマイナス幅は縮小している。前月比も3ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底入れの動きが確認されている。輸出の堅調さが素材や部材などの需要を下支えしているほか、原油をはじめとする商品市況の底入れの動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は+16.36億ドルと前月(+36.97億ドル)から黒字幅が縮小している。

2日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+3.8%となり、前月(同+3.7%)からわずかに伸びが加速するなど3ヶ月連続で底入れの動きを強めている。前月比は+0.34%と前月(同+0.59%)からペースこそ鈍化するも4ヶ月連続で上昇しており、生鮮品をはじめとする食料品やエネルギーなど生活必需品を中心とする物価上昇ペースは鈍化しているものの、依然として上昇圧力がくすぶる状況は変わらない。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.2%と前月(同+3.3%)からわずかに伸びが鈍化している。しかし、前月比は+0.32%と前月(同▲0.08%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの押し上げに加え、通貨ウォン安に伴う輸入インフレ圧力が強まっていることを反映して一部の財価格に上昇圧力が強まる動きがみられるほか、外国人観光客数の底入れを受けて一部のサービス物価が押し上げられていることが影響している。

図3 KR 鉱工業生産の推移



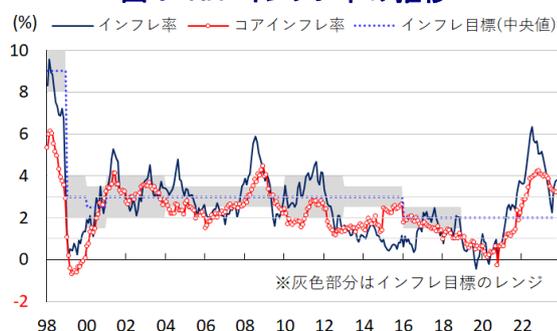
(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図4 KR 貿易動向の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図5 KR インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### [インドネシア]～生活必需品に物価上昇圧力が強まる一方、財・サービス物価上昇の動きに幅広く一服感～

1日に発表された10月の消費者物価は前年同月比+2.56%となり、前月（同+2.28%）から加速している。前月比は+0.17%と前月（同+0.19%）からわずかにペースは鈍化するも2ヶ月連続で上昇しており、このところの国際原油価格の底入れの動きに加え、通貨ルピア安に伴う輸入インフレ圧力の高まりを反映してエネルギー価格が上昇傾向を強めているほか、穀物価格の上昇を受けて生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる状況にある。他方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.91%となり、前月（同+2.00%）から鈍化が続いており、中銀の定めるインフレ目標（ $3 \pm 1\%$ ）の下限を下回る伸びで推移している。前月比も+0.08%と上昇が続くも、前月（同+0.12%）からペースは鈍化しており、エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かっているほか、ルピア安に伴う輸入インフレ懸念にも拘らず幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、サービス物価の上昇の動きにも一服感が出ており、景気底入れの動きに一服感が出ている可能性を示唆する兆しがうかがえる。

図6 ID インフレ率の推移



### [台湾]～旺盛な内需をけん引役に景気は底入れの動きを強めるも、内容は見た目ほどに強くないことに留意～

31日に発表された7-9月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+2.32%となり、前期（同+1.36%）から伸びが加速した。前期比年率ベースの成長率も+10.47%と2四半期連続のプラス成長で推移している上、前期（同+5.62%）からプラス幅も拡大するなど、足下の景気は底入れの動きを強めている。家計消費や政府消費の旺盛さが景気を押し上げる展開が続く一方、最大の輸出相手である中国景気を巡る不透明感の高まりや世界経済の減速懸念が輸出の重石となっているほか、企業部門の設備投資意欲の弱さは景気の足かせとなる状況が続いている。なお、設備投資需要の弱さを反映して輸入は輸出を上回るペースで減少しており、結果的に純輸出（輸出-輸入）の成長率寄与度は前期比年率ベースで+7.60ptと試算されるなど、足下の景気は見た目ほど好調ではないことに留意する必要がある。

図7 TW 実質 GDP と成長率(前年比)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】～足下の景気は勢いを欠く展開が続くなか、家計消費を巡る動きも一段と下押し圧力が掛かる状況～

31日に発表された7-9月の実質GDP成長率(速報値)は前年同期比+4.1%となり、前期(同+1.5%)から伸びが加速している。ただし、前期比年率ベースの成長率は+0.40%と前期(同▲5.25%)から2四半期ぶりのプラス成長に転じるなど底打ちしているものの、勢いの乏しい動きが続いていることに加え、実質GDPの規模もコロナ禍直前をわずかに上回る水準に留まるなど本格回復にはほど遠い状況が続いている。経済活動の正常化の進展やインフレ鈍化にも拘らず、家計消費はペントアップ・デマンド(繰り越し需要)の一巡も影響して力強さを欠く動きをみせるとともに、中国本土経済を巡る不透明感の高まりが重石となる形で財、サービス両面で輸出入ともに下押し圧力が掛かるなど、内・外需双方に勢いを欠く展開が続いている。なお、財政出動の動きを反映して政府消費は拡大して景気を下支えしているものの、全般的に景気は勢いを欠く展開が続いていると捉えられる。

1日に発表された9月の小売売上高(数量ベース)は前年同月比+10.1%となり、前月(同+11.0%)から伸びが鈍化している。前月比も▲0.70%と前月(同▲2.83%)から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、食料品関連の需要に堅調さがうかがえるほか、新型スマートフォンの発売も影響して家電関連の需要が大きく押し上げられる動きがみられる一方、日用品のみならず、自動車などの耐久消費財、宝飾品をはじめとする高額品など幅広い分野で需要が下振れしており、足下の雇用にも頭打ちの兆しが出ていることに加え、食料品やエネルギーなど生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられるなど、実質購買力への下押し圧力が掛かりやすい状況にあることも家計消費の足かせとなっている可能性がある。

図8 HK 実質 GDP と成長率(前年比)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。